

平成15年度 病害虫発生予察警報 第1号

平成15年8月13日
発表：福島県

病害虫名：イネいもち病（穂いもち）

1 発生地域：中通り、阿武隈山系及び浜通り山沿い

2 発生時期：遅い

3 発生量：多い

4 警報発令の根拠

8月上旬の調査では、葉いもち発生は場率の増加が近年5か年の中で最も著しかった（図1）。特に中通りと阿武隈山系で急増しており（図2）、浜通り山沿いの発生程度も平坦部と比較して高かった（図3）。

中通り西側の山沿いから平坦、阿武隈山系から浜通り山沿いにかけて「ずりこみ症状」の水田が多く見られる。

現在のところ、出穂期は6～11日程度遅れると予想されており（表1）、穂いもちの発生と関連が高い上位葉で、今後さらに葉いもちの病勢進展が懸念される。

向こう1か月の気温は平年並か低く、降水量は平年並が多く、日照時間は平年並か少ないと予想されているが、天気がぐずつくと、湿度が高まるため穂いもちに感染しやすくなるとともに、出穂が不揃いになって出穂期間が長くなることから感染する機会が多くなる。

本年のこれまでの気象経過は穂いもちの多発年と似ており、出穂期の天気もぐずつくと予想されていることから、過去の冷害年と同様に穂いもちの多発が懸念される（図4）。

5 防除法

現在、葉いもちの発生が見られるほ場では、直ちに散布剤（液剤、粉剤等）による防除を実施して、上位葉での病斑の増加を防ぐ（表2）。

穂いもちを対象に散布剤を使用する場合は、穂ばらみ末期と穂揃期の2回の薬剤散布が必須であるが、多発が予想される場合には、傾穂期の散布を追加する。

すでに穂いもちに対する水面施用剤を使用しているほ場でも、葉いもちが多発していると穂いもちに対して十分な防除効果を発揮できない場合があるので、散布剤による追加防除を行う。

表1 水稻の出穂予想（コシヒカリ）（農業試験場調べ）

地 方	田 植 日	本年予想出穂期	平年出穂期	平 年 差
中通り（郡山市）	5月15日	8月21日	8月13日	+ 8日
会津（会津坂下町）	5月20日	8月15日	8月 9日	+ 6日
浜通り（相馬市）	5月 9日	8月23日	8月12日	+ 11日

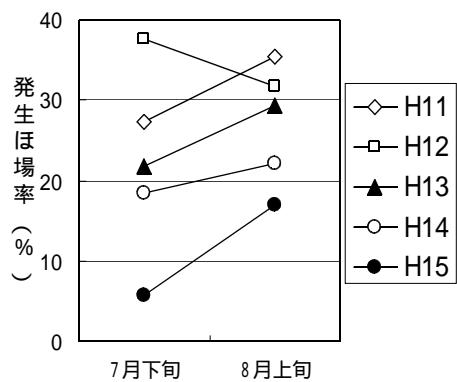


図1 年次別葉いもち発生ほ場率の推移

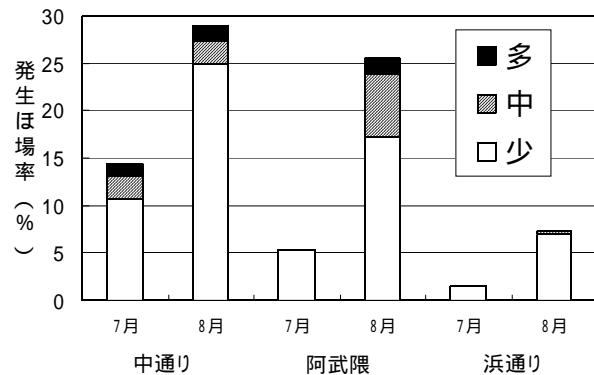


図2 葉いもちの時期別発生状況

注) 調査時期 7月: 4~5半旬、8月: 1~2半旬

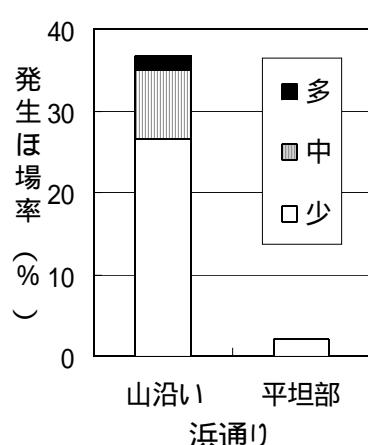


図3 浜通りにおける葉いもち発生状況

注) 調査日: 8月8日

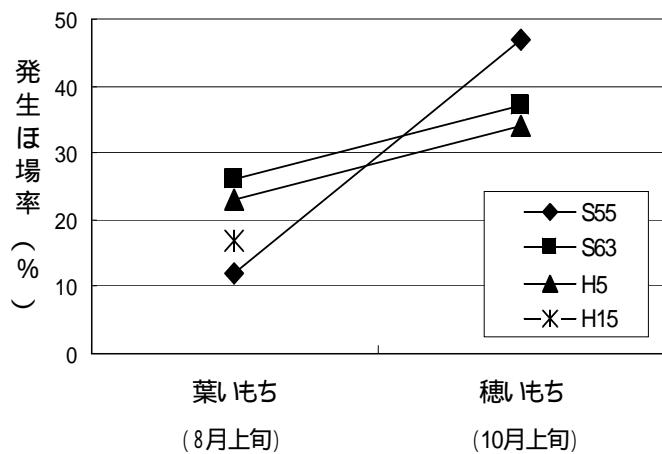


図4 穂いもち多発年における葉いもちと穂いもちの発生量の関係

表2 いもち病の散布薬剤

薬剤名	剤型	使用回数(本田)	使用時期[収穫前日数]
アチーブ	粉剤DL	3	14日前まで
カスラブサイド	粉剤3DL, 水和剤、ゾル	5	21日前まで
キタジンP	粉剤30DL, 乳剤	3	21日前まで
デラウス	粉剤DL, フロアフル	2	14日前まで
ヒノザン	粉剤DL, 乳剤30	3	21日前まで
ビーム	粉剤DL, ゾル	3	7日前まで
フジワン	粉剤DL, 乳剤	3	14日前まで
プラシン	粉剤DL, フロアフル, 水和剤	2	21日前まで(水和剤は30日)
ラブサイド	粉剤DL, フロアフル, 水和剤	4	21日前まで

使用濃度、量は液剤、乳剤、水和剤及びゾル: 1,000倍液、140~150リットル/10a、粉剤: 3~4kg/10a
注) 当該剤の使用回数制限とは別に薬剤の成分毎に使用回数の制限があるので注意すること。